

イスラーム地域研究拠点訪問

早稲田拠点（イスラーム地域研究機構）



ウィーン大学
カトリン・ウルバッハ

私はオーストリア、ウィーン大学大学院のアラブ文化・言語研究科で修士を修めた後に、MBAをとるため半年間、日本にやってきました。その課程がほぼ終わり、博士課程で学びたいと考え、情報収集をしていたところ偶然、友人が早稲田大学イスラーム地域研究機構の存在を知らせてくれ、是非とも訪れてみたいと思ったのです。

私は一月に、早稲田大学イスラーム地域研究機構を訪問させて頂きました。訪問したときは、詳しく機構の説明をして下さり、また、みなさんがフレンドリーに話をしてくれました。本当に感謝しています。機構では多くの大学院生や先生方と出会うことができました。驚いたのは、中東から遠く離れたこの東京で、非常に充実したイスラーム研究が行われていたことです。また中国、南アジアのイスラーム研究を手がけている研究者までいるのにも驚きまし



筑波大学大学院
人文社会科学研究所
准研究員 河野 明日香

た。こうした広範囲なイスラーム研究がなされているとは思っていませんでした。ある先生とはアラビア語で話もでき、非常に嬉しく思いました。もし日本で博士課程に進学することになったら、いろいろお世話になりたいと考えています。これからもよろしく願います。

早稲田大学イスラーム地域研究所・現代イスラーム地域研究センターは、東京大学拠点、上智大学拠点、東洋文庫拠点、京都大学拠点、そして早稲田大学拠点の五拠点によるNIHUPプログラム「イスラーム地域研究」の中心拠点である。今回、この五拠点を基点とした国際的イスラーム地域研究と筆者自身の専門である教育学におけるイスラーム研究の最新の成果に触れたいという二つの目的から、早稲田大学イスラーム地域研究所・現代イスラーム地域研究セ

ンターを見学させて頂いた。

まず、目を見張ったのは早稲田大学拠点全体が活気に溢れているという点である。当拠点では、毎日のようにスタッフ会議が開かれ、和文・英文ホームページの構成や五拠点全体の研究計画等の取りまとめ、研究会や国際シンポジウムの企画などが討議されている。また、毎週のようにさまざまな研究会が開催されており、そこでは研究者個々の最新の研究成果が報告され、活発な議論が展開されている。このような研究会やシンポジウムには、分野を問わず研究者とともに多くのポスドクや大学院生も参加しており、次世代のイスラーム地域研究者育成の重要な場ともなっていることが窺える。

早稲田大学拠点では、テーマを「イスラームの知と文明」と設定し、イスラーム文明の歴史の変遷を踏まえつつ、イスラーム独自の知やアジアにおけるムスリム・ネットワークを多様な視点から分析・考察することで、現代イスラーム理解の深化が目指されている。これに関連して、筆者が最も興味深く感じたのはグループ二（アジア・ムスリムのネットワーク）「マドラサ」研究班の研究活動である。昨年九月に開催された研究会「アジアのマドラサ」急増とその背景」では、バングラデシュやパキスタン、中国、アフガニスタン、イランにおけるマドラサの現況が報告されており、イスラームと教育の連関についてマドラサの観点から多角的な議論が行われていることが印象的であった。中央アジア地域の教育



を専門としている筆者にとって、非常に興味を掻き立てられる内容であったのである。

早稲田大学拠点では、今後もエジプト・カイロでの国際シンポジウムなどさまざまな国際会議や研究会、国際的共同研究が企画されているという。またそのような場に

は、研究者のみならず、大学院生や各国からの留学生などの参加も大いに歓迎されるそうである。筆者が所属する筑波大学には、中央アジア五カ国を対象とした留学プログラムがあるが、同プログラムで学ぶ大学院生や多くの研究者と早稲田大学をはじめとしたイスラーム地域研究機構がさまざまな

場面で連携していくことにより、今後のイスラーム地域研究が飛躍的に発展することを期待している。最後に、突然の訪問にも拘らず暖かく迎えてくださった早稲田大学拠点の先生方と多くの研究者の方々に心より御礼申し上げる。